



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2017年12月10 (日) 9:30~12:00 (晴)

参加者 一般：8名 (うち子ども3名)

指導員：5名

テーマ 「冬鳥を探そう！」

晴れて風もなく観察会日和でした。

12月ともなるとツグミ、ジョウビタキなどの冬鳥が飛来し、シジュウカラやエナガなどの小鳥は混群を作って行動しています。落葉樹の葉がなくなり、野鳥の姿が見やすくなっていますので、今回は野鳥を中心に見て回りました。

堤防道路を歩いている時、南派川の上をカワウが飛びました。黒い体色はカラスに似ていますが、よく見ると首が長い形状や飛び方が異なるので見分けられます。

この日はタカの仲間がしっかり見られました。最初に見たのは上空でカラスに追われているタカの仲間でした。オオタカとハイタカは体形が似ていますが、カラスの体長よりかなり小さいのでハイタカと思われます。眺めているとカラスが追いかけてたり、ハイタカが急旋回して反撃したりと見飽きません。その後、ハイタカより大型のオオタカも出現しました。

同じくタカの仲間のノスリは上空を低く飛んでしばらく旋回していたので、羽の下面の白と黒斑模様がしっかりと確認できました。対岸の林の梢に止まっているところをフィールドスコープで見ることができました。

通りがかりの人が、ベニマシコの群がアキノシの実をついばんでいたと教えてくれ、その辺りを探しましたが、残念ながら見つけれませんでした。

川原ではツグミやシメガ、林の中ではエナガ、メジロの混群に出会えました。この時期によく見られるシロハラやアオジハは姿も見られず、鳴き声もなくてちょっと残念でした。

途中、先月見つけたキツネの巣穴を観察しました。新しい足跡も見られ、ここが利用されていることが分かりました。多くの人を利用する公園ですが、いろいろな生き物も共存しているものなのですね。 (報告：齋竹)



(観察会のようす)

<その他観察できたもの>

鳥：ダイサギ、キジバト、ヒヨドリ、モズ、ハクセキレイ、ジョウビタキ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ウグイス (声)

虫：モンキチョウ、ツマグロヒョウモン、キタキチョウ

その他：ジョロウグモ



(ノスリ)



(ジョウビタキ)



(エナガ)